

様式第4号・その1(第7条関係)

令和2年4月15日

伊万里市議会議長 馬場 繁 様

氏名

山口 常人

令和元年度 伊万里市政務活動費収支報告について

伊万里市政務活動費の交付に関する条例第5条第1項により、別紙のとおり令和元年度政務活動費収支報告書を提出します。



様式第4号・その2 (第7条関係)

令和元年度政務活動費収支報告書

議員名 山口常人

1 収入 政務活動費 225,000円

2 支出

項目	金額(円)	備考
研究研修費		
調査旅費	60420	
資料作成費		
資料購入費		
広報費		
広聴費		
人件費		
事務所費		
その他の経費		
合計	60420	

3 残額 164580円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

様式第5号・その2 (第7条関係)

(1調査1枚作成)

調 査 旅 費

(支出明細書)

<p>調 査 目 的</p>	<p>①. 集落支援員について (総務省) 。 棚田地域振興法案について (農林水産省) ② ナショナルトレーニング・JOCの現地視察 ③ 神田川、環状七号線地下調節池見学視察</p>
<p>調 査 地</p>	<p>① 衆議院議員会館 (東京都) ② 味の素ナショナルトレーニングセンター (東京都) ③ 神田川、環状七号線地下調節池 (東京都)</p>
<p>調 査 年 月 日</p>	<p>令和元年 11 月 5 日 ~ 令和元年 11 月 6 日 (宿泊の有無 (有) ・ 無)</p>
<p>調 査 結 果</p>	<p>別紙のとおり</p>
<p>経 費 明 細 書</p>	
<p>旅 費</p>	<p>¥ 60,420</p>
<p>そ の 他</p>	<p></p>
<p>合 計</p>	<p>¥ 60,420</p>

政務活動費 旅費計算書

旅行者 (6)山口常人議員 (16)松永孝三議員 (17)前田久年議員

期 間 令和元年11月5日～11月6日(1泊2日)

行き先 ①衆議院議員会館(東京都)
②味の素ナショナルトレーニングセンター(東京都)内 容 ①集落支援員について(総務省)、棚田地域振興法案について(農林水産省)
②ナショナルトレーニング・JOCの現地視察

備 考

※網掛けは、領収書添付

(単位：円)

項 目	金 額	摘 要	
運 賃	3,680	伊万里～福岡空港(往復)	
	0	福岡空港～羽田空港(往復) ※パック料金に含む	
	940	羽田空港～東京(往復)	
航空機+ホテルパック (朝食付)	50,700	ホテル1泊	
食卓料(夕食相当分)	1,700	1,700円×1泊	
交通費	都内	3,400	1,700円×2日
計	60,420		

※旅費計算につきましては、伊万里市職員等の旅費に関する条例に基づき、最も経済的な経路及び方法により算出することとなっておりますので、申し出があった経路とは異なる場合があります。

領 収 証

No 019654

山口常人様

2019年10月30日

金額			¥	5	千	0	7	0	0	円
----	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---

現金	
小切手	
振込	

上記の金額正に領収致しました
但し 1/5~6 東京出張代金



あなたの一歩を目指して!

株式会社 西九州ツ

□本社 佐賀県伊万里市 天町718-1
TEL: 0955- 0955-25-9001

□松浦旅行 長崎県松浦市 里免384-1
サービス支店 TEL: 0956-72-3377 FAX: 0956-72-5570

担当者印



伊万里市議会議長 馬場繁様

政務活動費行政視察報告書

この度、政務調査費で令和元年11月5日～6日の2日間の工程にて、調査研修の目的で行政視察を行ないましたので、報告いたします。

令和元年11月5日（火） 10：00～12：00

（衆議院第二議員会館）第10会議室

★総務省

過疎対策室長 併任 復旧復興支援室長 梶 元伸 氏

地域力創造グループ過疎対策室 課長補佐 長谷 英昭 氏

// 総務事務官 竹林 遼 氏

○集落支援員について

はじめに、過疎地域等における集落の状況に関する現状把握調査結果（平成27年4月時点）についての説明を頂きました。

集計対象は、795市町村の1,489区域で本調査の調査対象地域のうち、過疎地域自立促進特別措置法に基づく過疎地域である区域の集落数61,919集落で、集落人口は、1,047万人となっており、人口が50人未満の集落数は、19,281集落(31.1%) 65歳以上の人口割合が50%以上の集落数は、14,221集落(31.1%)。75歳以上の人口割合が50%以上の集落数は、3,123集落(5.0%)。平成22年4月以降に転入があった集落数25,374集落(41.0%)。その内、子育て世帯が転入した集落数が15,947集落となっており、平成22年以降に無居住化した集落数は、176集落あると説明がありました。東北地方太平洋沖地震に伴った被災地域も12集落あるとのこと。

集落機能の維持状況、良好に維持されているが、50,426集落(81.4%)。機能低下が、8,445集落(13.6%)。維持困難2,744集落(4.4%)となっており、集落での問題が発生していることは、①空き家の増加②働き口の減少③耕作放棄地の増大などの問題が発生している。

この調査の結果で、過疎地域等の集落においては、小規模の集落や高齢者割合の高い集落が増えている傾向が見ることが出来た。

集落支援員は、地域の実情に詳しく、集落対策の推進に関してノウハウ・知見を有した人材が、市からの委嘱を受け、市職員と連携して集落への「目配り」として集落を巡回、状況把握等を行う、専任の集落支援員は設置できる。財政措置として、支援員一人当たり350万円。兼任の場合40万円を上限に特別交付税措置、情報提供等を実施している。

議会としても、集落支援員についての事業内容を把握するととも

に、この制度を活用して、地域支援の推進が出来るように各部にアプローチをしてまいります。

令和元年 11 月 5 日 (火)13:00~15:00

(衆議院第二議員会館)第 10 会議室

★農林水産省

農村振興局 農村政策部地域振興課中山間地域・日本型直接支払
課長補佐 黒田 裕一 氏

内閣府

地方創生推進事務局

内閣事務官 宮澤 剛 氏

○棚田地域振興法案について

議員立法により、「棚田地域振興法」が成立し、本年6月16日施行されました。法律に基づき「棚田地域の振興に関する基本的な方針」が8月22日に閣議決定されました。

基本理念として、棚田地域の有する多面にわたる機能(農産物の供給、神殿保全、水源の涵養、生物の多様性の確保その他自然環境の保全、良好な景観の形成、伝統文化の継承等)が維持されるよう、棚田等の保全を図るとともに、棚田地域における定住等及び国内外の地域との交流を促進することを旨として、行われなければならない。棚田地域の振興に関する施策は、農業者、地域住民等による自主的努力の助言及び多様な主体の連携・協力の促進を旨として、講ぜられなければならない。

棚田の定義について、「傾斜地に階段状に設けられて剛①稲作が行われている場合、②稲作以外の作物が栽培されている場合③又は、作物の栽培が何ら行われていない場合であっても、稲作の再開が見込まれる状況の場合が該当する。

棚田地域の活性化事例等の紹介もあり、佐賀県では、唐津市相知町の蕨野の棚田が紹介されました。棚田米のブランド化や直売所の設置等の事例がありました。

伊万里市においても、中山間地域が多く点在しており、棚田地域振興法の制度の活用をすることで、農村集落の持続可能な取組に繋がっていきると感じています。又、議員としてやるべき事、地域の特性を生かしていく事が活性化に繋がると思います。

令和元年 11 月 6 日(水)10:00～10:30

○日本オリンピックミュージアム見学 東京都新宿区

2020 東京オリンピックの開催に向けてミュージアムが新国立競技場のすぐそばに、2019 年 9 月 14 日にオープン、見て、触れて、体験しながらオリンピックについて学べるミュージアムとして造られた施設で、模擬射撃を体験することが出来ました。近代オリンピックのルーツが一堂に集積されていた。

★東京都建設局

○神田川・環状七号線地下調節池見学 11:00～12:30

事業の経緯について説明が有り、水害が多発した神田川中流域の水害に対する安全度を早期に向上させるため、環状七号線の道路下に延長 4.5 km、内径 12.5m のトンネルを建設し、神田川、善福寺川及び正寺川の洪水約 54 万㎡を貯留する施設である。

工事は、平成 7 年から着手され、平成 20 年に完成。神田川の河川断面広くするとか、河床を下げる手法で検討されたが、用地買収や住宅密集地であるため、工事困難が予測され、環状七号線の道路下 40m にトンネルを掘る方法が選択された。実際に地下 40m 下の貯水トンネルを見学いたしました。その施設の衝撃的な大きさに驚きを禁じえませんでした。また、日本の建設技術のすばらしさを再認識しました。

★日本オリンピック委員会 東京都北区

○味の素ナショナルトレーニングセンター14:00～15:30

膨大な敷地と施設の建物が建ち並ぶ味の素ナショナルトレーニングセンターを見学することが出来ました。関係者以外の立入も厳しくて見学できたことに、大変感激しありがたく思いました。

種目別にトレーニング施設が造られていて、日本のトップアスリートが使用する施設とのことで、オリンピックの競技施設と同様の施設を使用しているとの説明、名立たる選手の名前も頻繁に紹介されました。

なかには、バレーボールのアタック最高到達点が壁に標されており、人間があんなに高く飛び上がることが出来るのかと驚きました。選手の宿泊施設や食堂等も見ることが出来、栄養管理システムやロッカールームやシャワールームといった施設など完璧な環境で世界を目指すアスリートが育成されています。

令和 2 年 3 月 1 日

伊万里市議会議員

山口 常人